

校異源氏物語・みをつくし

さやかにみえ給ひし夢の後は院のみかとの御事をこゝろにかけきこえ給ひていか
てかのしつみたまえむつみすくひ奉る事をせむとおほしなけけるをかくかへ
りたまひてはその御いそぎし給神無月に御八講し給世の人なひきつかうまつる
ことむかしのやうなりおほきさき御なやみをくおはしますうちにもつゐにこ
の人をえけたすなりなむ事と心やみおほしけれとみかとは院の御ゆいこんをお
もひきこえ給ものゝむくひありぬへくおほしけるをなをしたて給て御心ちすゝ
しくなむおほしける時ときおこりなやませ給し御めもさはやき給ぬれとおほか
た世にえなかくあるまじうこゝろほそき事とのみひさしからぬ事をおほしつゝ
つねにめしありてけんしの君はまいり給世中のことなともへたてなくの給はせ
つゝ御ほいのやうなれは大かたの世の人もあいなくうれしきことによるこひき
こえけるおりゐなむの御こゝろつかひちかくなりぬるにも内侍のかみ心ほそけ
によをおもひなけき給つるいとあはれにおほされけりおとゝうせ給大宮もたの
もしけなくのみあつひ給へるにわか世残すくなき心ちするになむいといとおし
うなこりなきさまにてとまり給はむとすらむゝかしより人にはおもひおとし給
へれとみつからのこゝろさしの又なきならひにたゝ御事のみなむあはれにおほ
えけるたちまさる人又御ほいありてみたまふともをろかならぬ心さはしもな
すらはさらむとおもふさへこそ心くるしけれとてうちなき給ふ女君かほはいと
あかくにほひてこほるはかりの御あい行にて涙もこほれぬるをよろつのつみわ
すれてあはれにらうたしと御覽せらるなとかみこをたにもたまへるましきうち
おしうもあるかなちきりふかき人のためにはいまみいて給てむとおもふもくち
をしやかきりあはれたゝ人にてそみたまはむかしなと行すゑのことをさへのた
まはするにいとつかしうもかなしうもおほえ給御かたちとなまめかしうき
よらにてかきりなき御心さしのとし月にそうやうにもてなさせ給にめてたき人
なれとさしもおもひ給へらさりしけしき心はえなとものおもひしられたまふま
ゝになとてわか心のわかくいはけなきにまかせてさるさわきをさへひきいてゝ
わか名をはさらにもいはす人の御ためさへなとおほしいつるにいつき御身な
りあくるとしのきさらきに春宮の御元服の事あり十一になり給へとほとよりお

ほきにおとなしうきよらにてたゝけむしの大納言の御かほをふたつにうつした
らむやうにみえ給ふいとまはゆきまでひかりあひ給へるを世人めてたきものに
きこゆれとはゝ宮いみしうかたはらいたきことにあひなく御こゝろをつくし給
うちにもめてたしとみたてまつり給て世中ゆつりきこえ給へき事となつかし
うきこえしらせ給おなし月の廿日御くにゆつりのことにはかなれはおほきさ
きおほしあはてたりかいなきさまなからもこゝろのとかに御らんせらるへき事
をおもふなりとそきこえなくさめ給けるはうにはそ行殿のみこる給ひぬ世中あ
らたまりてひきかへ今めかしき事とおほかり源氏大納言内大臣になり給ひぬ
かすさたまりてくつろく所もなかりければくはゝり給也けりやかて世のまつり
ことをしたまふへきなれとさやうのことしけきそくにはたえすなむとてちし
おとゝせふ正したまふへきよしゆつりきこえ給ふやまひによりてくらゐをかへ
したてまつりてしをいよく老のつもりそひてさかしき事侍らしとうけひき申
給はす人のくにゝもことうつり世中さたまらぬおりはふかき山にあとをたえた
る人たにもおさまれる世にはしろかみもはちすいてつかへけるをこそまことの
ひしりにはしけれやまひにしつみてかへし申給けるくらゐを世中かはりてまた
あらため給はむにさらにとかあるましうおほやけたくしきためらるさるため
しもありければすまひはて給はて大政大臣になり給ふ御としも六十三にそなり
給世中すさましきによりかつはこもりぬ給ひしをとりかへしはなやき給へは御
子ともなとしつむやうにものし給へるをみなうかひ給とりわきて宰相中将権中
納言になり給かの四の君の御はらのひめ君十二になり給ふをうちにまいらせむ
とかしつき給かのたかさこうたひし君もかうふりせさせていとおもふさまなり
はらくゝに御こともいとあまたつきゝにおひいてつゝにきわゝしけなるを源
氏のおとゝはうらやみ給大殿はらのわかきみ人よりことにうつくしうて内春宮
の殿上したまふこひめ君のうせ給にしなけきを宮おとゝ又さらにあらためてお
ほしなけくされとおはせぬなこりもたゝこのおとゝの御ひかりによろつもてな
され給てとしころおほししつみつるなこりなきまでさかへ給ふなをむかしに御
心はへかはらす折ふしことにわたり給なとしつゝわか君の御めのとたちさらぬ
人人も年ころのほとまかてちらさりけるはみなさるへきことにふれつゝよすか
つけむことをおほしをきつるにさいはひ人おほくなりぬへし二条院にもおなし
ことまちきこえける人をあはれるものにおほしてとしころのむねあくはかり
とおほせは中将なかつかさやうの人ゝにはほとほとにつけつゝなさをみえ
給に御いとまなくてほかありきもしたまはず二条院のひむかしなる宮院の御せ

うふむなりしをになくあらためつけ給ふ花ちるさとなとやうの心くるしき人くすませむなどおほしあて、つくろはせ給まことやかのあかしに心くるしけなりし事はいかにとおほしわする、時なければおほやけわたくしいそかしきまきれにえおほすま、にもとふらひたまはさりけるを三月ついたちのほとこのころやおほしやるに人しれすあはれにて御つかひありけりとくかへりまいりて十六日になむ女にてたいらかにものし給ふとつけきこゆめつらしき様にてさへあなるをおほすにをろかならずなとて京にむかへてかゝることをもせさせさりけむとくちおしうおほさるすくえうに御子三人みかときさきかならずならひてうまれたまふへしなかのおとりは大政大臣にてくらゐをきはむへしとかむかへ申たりし事さしてかなふなめりおほかたかみなきくらゐにのほりよをまつりこち給ふへき事さはかりかしこかりしあまたのさふ人どものきこえあつめたるをとしころは世のわつらはしきにみなおほしけちつるをたうたいのかく位にかなひ給ぬることを思のことうれしとおほすみつからもゝてはなれ給へるすちは更にあるましき事とおほすあまたのみこたちの中にすくれてらうたきものにおほしたりしかとたゝ人におほしをきてける御心を思にすくせとをかりけりうちのかくておはしますをあらはに人のしる事ならねとさうにむのことむなしからすと御こゝろのうちにおほしけり今ゆくすゑのあらましことをおほすに住吉の神のしるへまことにかの人も世になへてならぬすくせにてひかゝしきおやもおよひなき心をつかふにやありけむさるにてはかしこきすちにもなるへき人のあやしきせかいにてむまれたらむはいとをしうかたしけなくもあるへきかなこのほとすくしてむかへてんとおほしてひむかしの院いそきつくらすへきよしもよをしおほせ給ふさる所にはかゝしき人しもありかたからむをおほしてこ院にさふらひしせむしのむすめ宮内卿の宰相にてなくなりにし人の子なりしをはゝなどもうせてかすかなる世にへけるかはかなきさまにてこうみたりときこしめしつけたるをさるたよりありてことのついでにまねひきこえける人めしてさるへきさまにのたまひきるまたわかくなにもなき人にてあけ暮人しれぬあはら屋になかむる心ほそさなれはふかうもおもひたとらすこの御あたりのことをひとへにめてたうおもひきこえてまいるへきよし申させたりいとあはれにかつはおほしていたして給ふものゝついてにいみしうしのひまきれておはしまひたりさはきこえなからいかにせましとおもひみたれけるをいとかたしけなきによりつおもひなくさめてたゝのたまはせむまゝにときこゆよろしきひなりければはいそかしたて給ひてあやしうおもひやりなきやうなれと思ふさまことなる

事にてなむみつからもおほえぬすまひにむすほゝれたりしためしをおもひよそへてしはしねむし給へなどことのありやうくはしうかたらひ給ふうへの宮つかへ時くせしかはみたまふおりもありしをいたうおとろへにけりいへのさまもいひしらすあれまどひてさすかにおほきなる所のこたちなとうとましけにいかてすくしつらむとみゆ人のさまわかやかにおかしければ御覽しはなたれすとかくたはふれ給ひてとりかへしつへき心ちこそすれいかにとの給ふにつけてもけにおなしうは御みちかふもつかうまつりなれはうきみもなくさみなましとみてまつる

かねてよりへたてぬ中とならはねとわかればおしき物にそありけるしたひ

やしなましとのたまへはうちはらひて

うちつけのわかれをおしむかことにておもはむかたにしたひやはせぬなれ
てきこゆるをいたしとおほすくるまにてそ京のほとはゆきはなれけるいとした
しき人さしそへ給て夢もらすましく口かため給てつかはす御はかしさるへきも
のなと所せきまておほしやらぬくまなしめのとにもありかたうこまやかなる御
いたはりのほどあさからす入道のおもひかしつきおもふらむ有さまおもひやる
もほゝゑまれたまふことおほく又あはれに心くるしうもたゝこの事の御心にかゝるもあさからぬにこそは御文にもをろかにもてなし思ふましとかへすくゝい
ましめたまへり

いつしかも袖うちかけむおとめこか世をへてなつるいはのおひさきつのく

にまては船にてそれよりあなたはむまにていそきいきつきぬ入道まちとりよろこひかしこまりきこゆることかきりなしそなたにむきておかみきこえてありか
たき御心はへをおもふにいよくゝいたはしうおそろしきまて思ふちこのいとゆゝしきまてうつくしうおはすることたくひなしけにかしこき御心にかしつきき
こえむとおほしたるはむへなりけりとみたてまつるにあやしきみちにいてたち
て夢の心ちしつるなけきもさめにけりいとうつくしうらふたうおほえてあつか
ひきこゆこもちの君も月ころ物をのみ思ひしつみていとゝよはれる心ちにいき
たらむともおほえさりつるをこの御をきてのすこしものおもひなくさめらるゝ
にそかしらもたけて御つかひにもになきさまの心さしをつくすとかまいりなむ
といそぎくるしかれはおもふ事ともすこしきこえつゝけて

ひとりしてなつるは袖のほとなきにおほふはかりのかけをしそまつときこ

えたりあやしきまて御心にかゝりゆかしうおほさる女君にはことにあらはして
おさおさきこえ給はぬをきゝあはせ給ふこともこそとおほしてきこそあなれあ

やしうねちけたるわさなりやさもおはせなむと思ふあたりには心もなくておもひのほかにくちおしくなん女にてあなれはいとこそものしれたつねしらてもありぬへき事なれとさはえおもひすつましきわさなりけりよひにやりてみせ
たてまつらむにくみ給ふなよときこえたまへはおもてうちあかみてあやしうつ
ねにかやうなるすちのたまひつくる心のほどこそわれなからうとましかれもの
にくみはいつならふへきにかとゑしたまへはいとよくうちゑみてそよたかなら
はしにかあらむおもはずにそみえ給ふや人の心よりほかなる思ひやりことして
ものゑしなとしたまふよおもへはかなしとてはて／＼はなみたくみ給ふとしこ
ろあかすこひしと思きこえ給し御心のうちともおり／＼の御ふみのかよひなど
おほしいつるにはよろつのことすさひにこそあれと思ひけたれ給ふこの人をか
うまておもひやりことゝふは猶思ふやうの侍そまたきにきこえは又ひか心えた
まふへければとのたまひさして人からのおかしかりしも所からにやめつらしう
おほえきかしなとかたりきこえ給あはれなりしゆふへのけふりいひしことなど
まほならねとそのよのかたちほのみしことのねのなまめきたりしもすへて御心
とまれるさまにのたまひいつるにも我は又なくこそかなしと思ひなけきしかす
さひにても心をわけ給けむよとたゝならす思ひつゝけ給て我はわれとうちそむ
きなかくめてあはれなりしよの有さまなひとりことのやうにうちなけきて
おもふとちなひくかたにはあらずともわれそけふりにさきたちなましな
とか心うや

たれにより世をうみ山に行めぐりたえぬなみたにうきしつむみそいてやい
かてかみえたてまつらむいのちこそかなひかたかへいものなめれはかなき事
にて人に心をかれしとおもふもたゝひとつゆへそやとてさうの御ことひきよせて
かきあはせすさひ給てそゝのかしきこえたまへとかのすくれたりけむもねたき
にやてもふれ給はすいとおほとかにうつくしうたをやきたまへるものからさす
かにしふねき所つきてものゑししたまへるか中／＼あひ行つきてはらたちなし
給をおかしう見所ありとおほす五月五日にそいかにはあたるらむと人しれすか
すへ給てゆかしうあはれにおほしやるなに事もいかにかひあるさまにもてなし
うれしからましくちをしのわさやさる所にしも心くるしきさまにていてきたる
よとおほすおとこ君ならましかはかうしも御心にかけ給ましきをかたしけなう
いとをしうわか御すくせもこの御事につけてそかたほなりけりとおほさるゝ御
つかひいたしたて給ふかならずそのひたかへすまかりつけとのたまへは五日に
いきつきぬおほしやる事もありかたうめてたきさまにてまめ／＼しき御とふら

ひもあり

うみ松やときそともなきかけにゐてなにのあやめもいかにわくらむ心のあ

くかるゝまてなむ猶かくてはえすくすましきをおもひたち給ひねさりともし
ろめたき事はよもとかい給へり入道れいのよろこひなきしてゐたりかゝるおり
はいけるかひもつくりいてたることはなりとみゆこゝにもよろつところせき
まておもひまうけたりけれとこの御つかひなくはやみの夜にてこそくれぬへか
りけれめのともこの女君のあはれに思やうなるをかたらひ人にて世のなくさめ
にしけりおさくおとらぬ人もるひにふれてむかへとりてあらすれとこよなく
おとろへたるみやつかへ人などのいはほの中たつぬるかおちとまれるなどこそ
あれこれはこよなうこめき思あかれりきゝ所ある世の物かたりなとしておとゝ
の君の御有さま世にかしつかれ給へる御おほえのほとも女心ちにまかせてかき
りなくかたりつくせはけにかくおほしいつはかりのなこりとゝめたるみもいと
たけくやうくおもひなりけり御ふみもゝろともにみて心のうちにあはれかう
こそおもひの外にめてたきすぐせはありけれうきものはわかみこそありけれと
おもひつゝけらるれとめのとのことはいかになとこまかにとふらはせ給へるも
かたしけなくなに事もなくさめけり御返には

かすならぬみしまかくれになくたつをけふもいかにとゝふ人そなきよろつ

に思ふ給へむすほゝゝ有さまをかくたまさかの御なくさめにかけ侍いのちの
ほともはかなくなむけにうしろやすくおもふ給へをくわさもかなとまめやかに
きこえたりうちかへしみ給つゝあはれとなかやかにひとりこち給を女君しりめ
にみをこせてうらよりをちにこく船のとしのひやかにひとりこちなかめ給ふを
まことはかくまてとりなし給ふよこはたゝかはかりのあはれそやところのさま
なとうち思ひやる時くきしかたの事わすれかたきひとりことをようこそきゝ
すくい給はねなとうらみきこえ給てうはつゝみはかりをみせたてまつらせ給ふ
ふてなどのいとゆへつきてやむことなき人くるしけなるをかゝれはなめりとお
ほすかくこの御心とり給ふほとに花ちる里などをかれはて給ひぬるこそいとを
しけれおほやけこともしけく所せき御みにおほしはゝかるにそへてもめつらしく
く御めおとろくことのなきほと思ひしつめ給なめりさみたれつれくゝなるころ
おほやけわたくし物しつかなるにおほしおこしてわたり給へりよそなからもあ
け暮につけてよろつにおほしやりとふらひきこえ給をたのみにてすくい給所な
れはいまめかしう心にくきさまにそはみうらみ給ふへきならねは心やすけなり
年比にいよくあれまさりすこけにておはす女御の君に御物かたりきこえ給て

西のつまとに夜ふかして立より給へり月おほろにさし入ていとゝえむなる御ふるまひつきもせずみえ給ふいとゝつゝましけれとはしちかふうちなかめ給けるさまなからのとやかにてもものし給ふけはひいとめやすしくひなのいとちかふなきたるを

くひなたにおとろかさすはいかにしてあれたるやとに月をいれましといと

なつかしういひけち給へるそとりくゝにすてかたきよかなかゝるこそ中くゝみもくるしけれとおほす

をしなへてたゝくくひなにおとろかはうはの空なる月もこそいれうしろめ

たうとはなをことにきこえ給へとあたゝしきすちなとうたかはしき御こゝろはへにはあらずとし比まちすくしきこえ給へるもさらにをろかにはおほされさりけり空ななかめそとたのめきこえ給ひしおりの事ものたまひいてゝなとてたくひあらしといみしうものを思しつみけむうきみからはおなしなけかしさにこそとのたまへるもおいらかにらうたけなりれのいつこの御ことのはにかあらむつきせずそかたらひなくさめきこえ給かやうのついでにもかの五せちをおほしわすれす又みてしかなど心にかけて給へれといとかたき事にてえまきれ給はす女ものおもひたえぬをおやは万におもひいふ事もあれとよにへんことを思ひたえたり心やすきとのつくりしてはかやうの人つとへてもおもふさまにかしつき給ふへき人もいてものし給はゝさる人のうしろみにもとおほすかの院のつくりさま中くゝみところおほくいまめひたりよしあるすらうなとをえりてあてゝにもよをし給ふないしのかむの君なをえおもひはなちきこえ給はすこりすまにたちかへり御心はへもあれと女はうきにこり給てむかしのやうにもあひしらへきこえ給はす中くゝところせうさうくゝしう世中おほさる院はのとやかにおほしなりて時くゝにつけておかしき御あそひなどこのましけにておはします女御かういみなれいのことさふらひ給へと春宮の御はゝ女御のみそとりたてゝ時めき給ふ事もなくかむの君の御おほえにをしけたたまへりしをかくひきかへめてたき御さいはひにてはなれいてゝ宮にそひたてまつり給へるこのおとゝの御とのゐところはむかしのしけいさなりなしつほに春宮はおはしませはちかとなりの御心よせになに事もきこえかよひて宮をもうしろみたてまつり給にうたう後の宮御くらゐをまたあらため給へきならねは太上天皇になすらへてみふ給まはらせ給院司ともなりてさまことにいつくし御をこなひくどくの事をつねの御いとなみにておはしますとしころ世にはゝかりていていりもかたくみたてまつり給はぬなけきをいふせくおほしけるにおほすさまにてまいりまかて給もいと

めてたければおほきさきはうきものはよなりけりとおほしなけくおとゝはことにふれていとはつかしけにつかまつり心よせきこえ給も中くいとをしけなるを人もやすからすきこえけり兵部卿のみことしころの御こゝろはへのつらくおもはずにてたゝ世のきこえをのみおほしはゝかりたまひし事をおとゝはうきものにおほしをきてむかしのやうにもむつひきこえ給はすなへての世にはあまねくめてたき御心なれとこの御あたりは中くなさけなきふしもうちませ給を入道の宮はいとをしようほいなきことにみたてまつり給へり世中の事たゝなかはをわけておほきおとゝこのおとゝの御まゝなり権中納言の御むすめその年の八月にまいらせ給おほち殿ゐたちてきしきなといとあらまほし兵部卿宮のなかの君もさやうに心さしてかしつき給名たかきをおとゝは人よりまさり給へとしもおほさすなむありけるいかゝし給はむとすらむその秋すみよしにまうて給願ともはたし給へければいかめしき御ありきにて世中ゆすりてかむたちめ殿上人我もくゝとつかふまつり給おりしものあかしの人としこのれいのことにてまうつるをこそとしはさはる事ありてをこたりけるかしこまりとりかさねておもひたちけり船にてまうてたりきしにさしつくるほとみれはのゝしりてまうて給ふ人のけはひなきさにみちていつくしきかむたからをもてつゝけたりかく人をつらなとさうそくをとゝのへかたちをえらひたりたかもうて給へるそとふめれは内大臣殿の御願はたしにまうて給ふをしらぬ人もありけりとではかなき程のけすたに心ちよけにうちはらふけにあさましう月日もこそあれ中くこの御有さまをはるかにみるも身のほとくちをしようおほゆさすかにかけはなれたてまつらぬすくせなからかくゝちおしきゝわの物たにもの思なけにてつかうまつるをいろふしに思ひたるになにのつみふかき身にて心にかけておほつかうおもひきこえつゝかゝりける御ひゝきをもしらてたちいてつらむなとおもひつゝくるにいとかなしうて人しれすしほたれけり松はらのふかみとりなるに花もみちをこきちらしたるとみゆるうへのきぬのこきうすきかすしらす六位の中にも蔵人はあをいろしるくみえてかのかものみつかきうらみし右近のせうもゆけるになりてことくしけなるすいしくしたる蔵人なりよしきよもおなしすけにて人よりことにもの思ひなきけしきにておとろおとろしきあかきぬすかたいときよけなりすへてみし人くゝひきかへはなやかにに事おもふらむとみえてうちちりたるにわかやかなるかむたちめ殿上人の我もくゝとおもひいとみむまくらなとまでかさりとゝのへみかき給へるはいみしきものにゐなか人もおもへり御車をはるかにみやればなかく心やましくて恋しき御かけをもえみたてま

つらすかはらのおとゝの御れいをまねひてわらはすいしんを給はり給けるいと
をかしけにさうそきみつらゆひてむらさきすそのもとゆひなまめかしうたけ
すかたとゝのひうつくしけにて十人さまことにいまめかしうみゆおほとのはら
のわか君かきりなくかしつきたてゝむまそひわらはのほとみなつくりあはせて
やうかへてさうそきわけたり雲井はるかにめてたくみゆるにつけてもわか君の
かすならぬさまにてもし給をいみしと思ひよゝみやしろのかたをおかみき
こゆくにかみまいりて御まうけれいの大いり給よりはことによに
なくつかうまつりけむかしいとはしたなければたちましかすならぬ身のいさ
ゝかの事せむに神もみいれかすまへ給ふへきにもあらずかへらむにも中そらな
りけふはなにはに船さしとめてはらへをたにせむとてこきわたりぬ君はゆめに
もしり給はす夜ひとよ色ゝのこをせさせ給ふまことに神のよろこひ給へき
事をしつくしてきしかたの御願にもうちそへありかたきまであそひのゝしりあ
あからさまにたちいて給へるにさふらひてきこえてたり
すみよしのまつこそものはかなしけれ神世のことをかけておもへはけにと
おほしいてゝ

あらかりしなみのまよひに住よしの神をはかけてわすれやはするしるしあ
りなどのたまふもいとめてたしかのあかしの舟このひゝきにをされてすきぬる
事もきこゆれはしらさりけるよとあはれにおほす神の御しるへをおほしいつる
もをろかならねはいさゝかなるせうそこをたにして心なくさめはや中ゝにお
もふらむかしとおほすみやしろたちたまで所ゝにせうえうをつくし給ふなに
はの御はらへなゝせによそをしょうつかまつるほりえのわたりを御らむしていま
はたおなしなにはなると御こゝろにもあらてうちすし給へるを御車のもどちか
きこれみつうけ給はりやしつらむさるめしもやとれいにならひてふところにな
うけたるつかみしかきふてなと御車とゝむる所にてたてまつれりをかしとおほ
してたゝうかみに
みをつくしこふるしるしにこゝまでもめぐりあひけるえにはふかしなとて
給へれはかしこのこゝろしれるしも人してやりけりこまなめてうちすき給ふに
も心のみうこくに露はかりなれといとあはれにかたしけなくおほえてうちなき
ぬ

かすならてなにはのこもかひなきになとみをつくしおもひそめけむたみ
のゝしまにみそきつかうまつる御はらへのものにつけてたてまつる日暮かたに

なり行ゆふしほみちきて入えのたつもこゑおしまぬほどのあはれなるおりから
なれはにや人めもつゝますあひまほしくさへおほさる

露けさのむかしににたるたひころもたみのゝしまのなにはかくれすみちの

まゝにかひあるせうえうあそひのゝしり給へと御心にはなをかゝりておほしや
るあそひものつとひまいれるかむたちめときこゆれとわかやかにことこのま
しけなるはみなめとゝめ給へかめりされとてやおかしきことも物のあはれも
人からこそあへけれなのめなることをたにすこしあはきかたによりぬるは心と
ゝむるたよりもなきものをおほすにをのか心をやりてよしめきあへるもうと
ましうおほしけりかの人はすくしきこえて又の日そよろしかりければ御てくら
たてまつるほどにつけたる願ともなとかつゝはたしける又中々物おもひそ
はりてあけ暮くちおしき身をおもひなけくいまや京におはしつくらむとおもふ
日かすもへす御つかひありこのころのほどにむかへむことをそのたまへるいと
たのもしけにかすまへのたまふめれといさやまたしまこきはなれなか空に心ほ
そきことやあらむとおもひわつらふ入道もさていたしはなたむはいとうしろめ
たうさりとてかくうつもれすくさむをおもはむも中々きしかたの年ころより
も心つくしなりよろつにつゝましうおもひたちかたき事をきこゆまことやかの
さい宮もかはり給にしかはみやすむ所のほり給てのちかはらぬさまになに事も
とふらひきこえ給事はありかたきまてなさけをつくし給へとむかしたにつれな
かりし御心はへの中々ならむ名残はみしとおもひはなち給へれはわたり給な
とすることはことになしあなちになうこかしきこえ給てもわか心なからしりか
たくとかくかゝつらはむ御ありきなども所せうおほしなりにたれはしゐたるさ
まにもおはせすさい宮をそいかにねひなり給ぬらむとゆかしうおもひきこえ給
なをかの六条のふる宮をいとよくすりしつくるひたりければみやひかにてすみ
給けりよしつき給へることふりかたくてよき女坊などおほくすいたる人のつと
ひところにてものさひしきやうなれと心やれるさまにてへたまふほとにはか
にをもくわつらひ給ひてものゝいと心ほそくおほされればつみふかきところ
ほとりととしへつるもいみしうおほしてあまになり給ひぬおとゝきゝ給てかけ
くゝしきすちにはあらねとなをさるかたのものをもきこえあはせ人におもひき
こえつるをかくおほしなりにけるかくちをしようおほえ給へはおとろきなからわ
たり給へりあかすあはれなる御とふらひきこえ給ふちかき御まぐらかみにおま
しよそひてけうそくにをしかりて御返なときこえ給ふもいたうよりはり給へる
けはひなれはたえぬこゝろさしのほとはえみえたてまつらてやとくちおしうて

いみしくない給かくまでもおほしとゝめたりけるを女もよろつにあはれにおほして斎宮の御事をそきこえ給心ほそくてとまり給はむをかならすことにふれてかすまへきこえ給へ又みゆつる人もなくたくひなき御ありさまになむかひなきみなからもいましはし世中をおもひのとむるほとはとさまかうさまにものをおほししるまてみたてまつらむとこそ思たまへつれとてもきえいりつゝない給かゝる御事なくてたにおもひはなちきこえさすへきにもあらぬをまして心のよろめたくなおもひきこえ給そなときこえたまへはいとかたき事まことにうちたのむへきおやなどにてみゆつる人たに女おやにはなれぬるはいとあはれなることにこそ待めましておもほし人めかさむにつけてもあちきなきかたやうちましり人に心もをかれ給はむうたてあるおもひやり事なれとかけてさやうのよついたるすちにおほしよるなうき身をつみ侍にも女はおもひの外にても思をそふるものになむ侍ければいかてさるかたをもてはなれてみたてまつらむとおもふ給ふるなときこえ給へはあひなくもの給かなとおほせとゝしころによろつおもふ給へしりにたるものをむかしのすき心の名残ありかほにの給ひなすもほいなくなむよしをのつからとてとはくらうなりうちはおほとのおふらのほのかにものよりとほりてみゆるをもしもやとおほしてやをらみき丁のほころひよりみたまへは心もとなきほとのおかけに御くしいとおかしけにはなやかにそきてよりゐたまへるゑにかきたらむさましていみしうあはれなり丁のひむかしおもてにそひふし給へるそみやならむかしみき丁のしとけなくひきやられたるより御めとゝめてみとをし給へれはつらつえつきていともかなしとおほいたるさまなりはつかなれといとうつくしけならむとみゆ御くしのかゝりたるほとかしらつきけはひあてにけたかきものからひちゝかにあひ行つき給へるけはひしるくみえ給へは心もとなくゆかしきにもさはかりのたまふものをとおほしかへすいとくるしさまさり侍かたしけなきをはやわたらせ給ねとて人にかきふせられ給ふちかくまいりきたるしによろしうおほされはうれしかるへきを心くるしきわさかないかにおほさるゝそとのそき給ふけしきなれはいとをそろしけに侍やみたり心ちのいとくかきりなるおりしもわたらせ給へるはまことにあさからすなむおもひ侍ことをすこしもきこえさせつれはさりとともたのもしくなむときこえさせ給かゝる御ゆいこむのつらにおほしけるもいとゝあはれになむこ院のみこたちあまたものし給へとしたしくむつひおもほすもおさゝなきをうへのおなしみこたちのうちにかすまへきこえ給しかはさこそはたのみきこえ

侍らめすこしおとなしきほとになりぬるよはひなからあつかふ人もなければさうくしきをなときこえてかへり給ぬ御とふらひいますこしたちまさりてはくきこえ給ふ七八日ありてうせ給にけりあえなうおほさるゝによもいとはかなくてもの心ほそくおほされてうちへもまいり給はすとかくの御事などをきてさせ給ふ又たのもしき人もことにおはせさりけりふるき齋宮の宮つかさなとつかうまつりなれたるそわつかに事ともさためける御みつかからもわたり給へり宮に御せうそきこえ給なに事もおほえ侍らてなむと女別当してきこえ給へりきこえさせの給をきし事もはへしをいまはへたてなきさまにおほされはうれしくなむときこえ給て人くめしいてゝあるへき事ともおほせ給ふいとたのもしけにとしころの御心はへとりかへしつへうみゆいといかめしうとのゝ人くかすもなうつかうまつらせ給へりあはれにうちなかめつゝ御さうしにてみすおろしこめてをこなはせ給ふ宮にはつねにとふらひきこえ給やうく御心しつまり給てはみつから御かへりなときこえ給ふつゝましうおほしたれと御めのとなとかたしけなしとそゝのかしきこゆるなりけり雪みそれかきみたれあるゝ日いかに宮のありさまかすかななめ給ふらむとおもひやりきこえ給て御つかひたてまつれ給へりたゝいまの空をいかにご覧すらむ

ふりみたれひまなき空になき人のあまかけるらむやとそかなしき空いろのかみのくもらはしきにかい給へりわかき人の御めにとゝまるはかりと心してつくろひ給へるいとめもあやなり宮はいときこえにくゝしたまへとこれかれ人つてにはいとひむなきことゝせめきこゆれはにひろのかみのいとかうはしうえむなるにすみつきなとまきはして

きえかてにふるそかなしきかきくらしわか身それともおもほえぬよにつゝましけなるかきさまいとおほとかに御てすくれてはあらねとらうたけにあてはかなるすちにみゆくたり給しほとより猶あらすおほしたりしをいまは心にかけてともかくもきこえよりぬへきそかしておほすにはれいのひきかへしいとをしくこそこ宮すむところのいとうしろめたけに心をき給しをことはりなれと世中の人もさやうにおもひよりぬへきことなるをひきたかへこゝろきよくてあつかひきこえむうへのいますこしものおほしゝるよはひにならせ給なは内すみせさせたてまつりてさうくしきにかしつきくさにこそとおほしなるとまめやかにねんころにきこえ給てさるへきおりくはわたりなとし給ふかたしけなくともむかしの御名残におほしなすらへてけとをからすもてなさせ給はゝなむほいなる心ちすへきなときこえたまへとわりなくものはちをしたまふおくまりたる

人さまにてほのかにも御こゑなときかせたてまつらむはいとよになくめつらかなる事とおほしたれは人くもきこえわつらひてかゝる御心さまをうれへきこえあへり女へたう内侍などいふ人くあるははなれたてまつらぬわかむとをりなどにて心はせある人くおほかるへしこの人しれすおもふかたのましらひをせさせたてまつらむに人におとりたまふましかめりいかてさやかに御かたちをみてしかなとおほすもうちとくへき御おや心にはあらずやありけむわか御心もさためかたければかくおもふといふ事も人にもゝらし給はす御わさなどの御事をもとりわきてせさせたまへはありかたき御心を宮人もよろこひあへりはかなくする月日にそへていとゝさひしく心ほそき事のみまさるにさふらふ人くもやうくあかれゆきなどとしてしもつかたの京極わたりなれば人けとをく山てらの入あひのこゑくゝにそへてもねなきかちにてそすくし給ふおなしき御おやときこえしなかにもかた時のまもたちはなれたてまつり給はてならはしたてまつり給ひて齋宮にもおやそひてくたり給事はれいなきことなるをあなかにいさなひきこえ給し御心にかきりあるみちにてはたくひきこえ給はすなりにしをひるよなうおほしなけきたりさふらふ人くたかきもいやしきもあまたありされとおとゝの御めのとたちたにこゝろにまかせたる事ひきいたしつかうまつるなゝとおやかり申給へはいとはつかしき御ありさまにひんなき事きこしめしつけられしといひおもひつゝはかなき事のなさけも更につくらす院にもかのくたり給し大極殿のいつかしかりしきしきにゆゝしきまてみえ給し御かたちをわすれかたうおほしをきければまいり給て齋院など御はらからの宮くおはしますたくひにてさふらひ給へとみやす所にもきこえ給きされとやむことなき人くさふらひ給ふにかすくゝなる御うしろみもなくてやとおほしつゝみうへはいとあつしうおはしますもおそろしう又ものおもひやくはへ給はんとはゝかりすくし給しをいまはましてたれかはつかうまつらむと人くおもひたるをねむころに院にはおほしのたまはせけりおとゝきゝ給て院より御けしきあらむをひきたかへよことり給はむをかたしけなき事とおほすに人の御ありさまのいとらうたけにみはなたむは又くちをしうて入道の宮にそきこえたまひけるかうくゝのこをなむおもふ給へわつらふにはゝみやすむ所いとおもくしく心ふかきさまにものし侍しをあちきなきす心にまかせてさるまじきなをもなかしうきものにおもひをかれ侍にしをなんよにいとおしくおもひたまふるこの世にてそのうらみの心とけすすき侍にしをいまはとなりてのきはにこの齋宮の御事をなむものせられしかはさもきゝをき心にものこすましうこそはさすかにみをき給けめ

とおもひ給ふるにもしのひかたうおほかたのよにつけてたに心くるしき事はみ
きゝすくされぬわさに侍をいかてなきかけにてもかのうらみわするはかりとお
もひ給ふるをうちにもさこそおとなひさせ給へといときなき御よはひにおはし
ますをすこし物の心しる人はさふらはれてもよくやとおもひ給ふるを御された
になときこえたまへはいとようおほしよりけるを院にもおほさむ事はけにかた
しけなういとをしかるへけれとかの御ゆひこむをかこちてしらすかほにまいら
せたてまつりたまへかしいまはたさやうの事わさともおほしとゝめす御をこな
ひかちになり給てかうきこえ給をふかうしもおほしとかめしとおもひたまふる
さらは御けしきありてかすまへさせ給はゝもよをしはかりのことをそふるにな
し侍らむとさまかうさまにおもひたまへのこす事なきにかくまでさはかりの心
かまへもまねひ侍るによ人やいかにとこそはゝかり侍れなときこえたまでのち
にはけにしらぬやうにてこゝにわたしたてまつりてむとおほす女君にもしかな
ん思ひかたらひきこえてすくひ給はむにいとよきほとなるあはひならむときこ
えしらせたまへはうれしきことにおほして御わたりのことをいそぎ給ふ入道の
宮兵部卿の宮の姫君をいつしかとかしつきさはき給ふめるをおとゝのひまある
中にていかゝもてなしたまはむと心くるしくおほす権中納言の御むすめはこき
殿の女御ときこゆおほとゝ御こにていとよそほしうもてかしつきたまふうへ
もよき御あそひかたきにおほいたり宮の中の君もおなしほとにおはすれはうた
てひゐなあそひの心ちすへきをおとなしき御うしろみはいとうれしかへいこと
ゝおほしの給てさる御けしききこえ給つゝおとゝのよろつにおほしいたらぬこ
となくおほやかたの御うしろみはさらにもいはすあけ暮につけてこまかなる
御心はへのいとあはれにみえ給ふをたのもしきものにおもひきこえ給ていとあ
つしくのみおはしませはまいりなどし給ても心やすくさふらひたまふこともか
たきをすこしおとなひてそひさふらはむ御うしろみはかならすあるへきことな
りけり